

生き物との出会いが遊びに生きる

下川崎幼稚園（福島県二本松市）

[5 歳児]

6月下旬

地域のアジサイ街道へ遠足に行き、途中の農家で飼育している牛を見せていただく。街道では、草むらでたくさんのカエルを見つける。昨年の同時期にはトンボの群れがいたことを思い出し、会話が弾む。カエルと一緒にピョンピョン跳んだり歌を歌ったりして遊ぶ。

- ・コースや開花の時期など事前に下見をしておき、共通の感動体験ができるようにする。
「坂のてっぺんまで山登りみたいだね!」「もうすぐ大きいウシがいるよ!」など、楽しく歩けるよう励ます。

「すごく大きい顔!」
「歯もあるんだね!」
「目がかわいいね!」
「赤ちゃんもいるんだって!」



「すみれ(4歳児)の時、ここにいっぱいトンボがいて...園長先生が帽子で捕ったんだよね!」
「うん、すごく暑かったよね!」



「カエル、カエル、いっぱいだ~」
「お父さんカエル」
「お兄ちゃんカエル」
「お兄ちゃんは学校に行っちゃった~」



翌日の好きな遊びで...

女兒が大好きな犬・猫ごっこに異変!遠足で出会った“ウシ”“カエル”が登場し、会話のやりとりが弾んでいた。「ウシく~ん!遊びに来て!」「カエルのお兄ちゃんになっていい?」「人間のお兄ちゃんとお姉ちゃんが、お家を作って!」積み木で家を作ってごっこ遊びが盛り上がる。

その後...5歳児みんなでお話作りをして遊ぶことを楽しんでいた。

「ちゃんが“ウシくん”なの?もう一回教えて!」など各自の役割がはっきりするよう言葉をかける。さらに「何歳?何が好きなの?」と自分なりに考えたことを友達に受け入れてもらえるよう、役柄の特徴を分かりやすくしてやる。

4歳児にも楽しさが伝わるよう、動物は紙人形で背景風に場面を大きく表現してはどうだろう?

台所にテーブルと椅子を描くから!

「カエルは5年生のお兄ちゃんだよ!」



「動物なかよしハウスにしようね。ここは女の子の着替える部屋だよ」

【考察】

五感を通して季節を感じることは、子どもの感動体験を積み重ねることに有効である。友達の気付きも自分のことのように受け止め共感し合うことで、会話をしながら遊びの幅が広がっている。見たり触れたりする直接体験が、幼児の心の動きを素直な言葉で表現できることにもつながっていくと思われる。

個々のイメージを、相手にわかりやすく伝えるために絵で表現したことで、遊びながら会話のやりとりが広がっていった。

みどころ

遠足での子どもたちの共通体験が、遊びにつながっていきました。生き物たちと直接触れ合ったことで心が揺り動かされ、その感動が歌や言葉、動き、絵など、子どもたちの様々な表現を引き出しています。また、遊びの中で友達とやりとりするうちに、イメージが広がっていく様子が伝わってきます。絵本や図鑑からの知識だけでなく、直接体験による気付きや感動を表したいという欲求が、遊びを考え・創り出していく喜びへと膨らみ、「科学する心」の育ちにつながる事が期待できます。